

2021年度 三つのポリシーのアセスメント結果について

(1) 学部

昨年度に引き続き、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、あらかじめアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、入試結果、外部アセスメントテスト、各種アンケート、単位修得状況、進級・卒業判定結果等、エビデンス（2020年度資料）をもとに学修成果についての検証を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学内入構禁止、オンライン授業、学生諸活動の停止など、困難の中ではありましたが、概ね設定された項目について、教育の質を担保できていると判断できます。

中でも厳しい評価を乗り越えてきた卒業生（卒業後3年）に対して行うアンケートにおいては、入学してよかったが95%近く、総合的満足度が85%と高い数値を示していることから、十分に質保証ができていると考えられます。外部アセスメントとして利用しているGPS-Academicにおける検証において未達であった項目の読書量、学修量についても、わずかであるが改善傾向にあり、個々の授業における取組が効果をもたらしていると判断できます。

次年度に向けても、評価項目並びに測定基準の見直しとともに、適切なPDCAサイクルの運用など点検・評価を通じた不断の改善に取り組んでいきます。

(2) 大学院

昨年に引き続き、大学院での検証結果については、設定した基準を満たしており、目標を達成していると判断できます。本学研究科は経済学研究科1研究科のみで、定員も前期課程10名、後期課程3名と少人数であり、一人一人に行き届いた教育・研究環境が提供できていることが要因であると判断しています。また、修了者アンケートの結果におけるカリキュラムに関する満足度がどの科目分野でも80%以上「強く思う」「そう思う」の肯定的意見であったこと、身についた力においても「知識・理解」「論理的思考・分析力」「問題解決力」の3項目の肯定的意見が100%となっていることからそのことが伺えます。

近年、経済学専修コースにおいて、修了率92%、就職率80%（進学者除く）と高く、この点においても行き届いた教育・研究がなされていると判断されますが、博士課程後期課程への進学者、入学者が少ないことが大きな課題であり、同課程の定員充足率並びに博士の学位取得者を増やすことが、大学院の教育の質保証を担保するために必要な要素であると考えられます。今後も研究者養成コースの充実、発展のために、アセスメントを充実させ、本研究科の教育・研究内容について、学内外からの評価を得て、改革改善に活かせるよう取り組んでいきます。